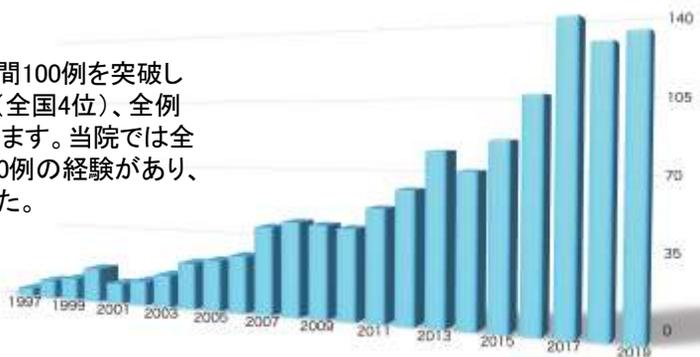


昭和大学病院での食道がん手術治療成績

症例数

1996年から胸腔鏡手術を導入し、2016年に年間100例を突破しました。2019年は132例の手術を行っており(全国4位)、全例胸腔鏡手術としては全国3位の件数となっています。当院では全例胸腔鏡手術を行っており、現在まで約1300例の経験があり、全国有数の食道癌胸腔鏡手術施設となりました。

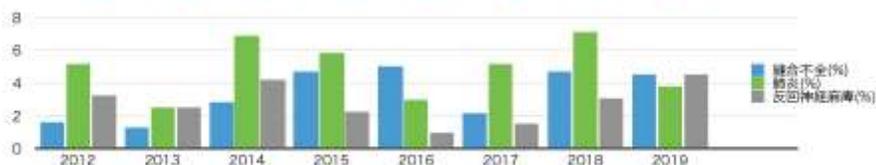


合併症

食道癌手術では、他の消化器外科手術と比較して合併症発生が多い手術のひとつです。肺炎、縫合不全、反回神経麻痺などは入院期間に影響しやすいため、日々、手術手技の改良、手術前後のリハビリの工夫で、合併症ゼロを目指しています。全国平均でも全国規模の調査で、「食道外科専門医認定施設で手術を受けた方が、治療成績がいい」という報告があります (<https://www.esophagus.jp/public/list/superiority.html>)。それでも上記合併症は平均でも10%を超えるところですが、当院は同認定施設であり、日本食道学会における食道外科専門医、食道科認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医が在籍しており、全国平均と比較しても、合併症は定率となっています。術後在院日数は15日程度(中央値)ではありますが、早い方で9-10日で退院可能です。

合併症の推移

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
症例数(例)	63	80	72	86	101	135	127	132
縫合不全(%)	1.6	1.3	2.8	4.7	5.0	2.2	4.7	4.5 *CDgrade > 3a
肺炎(%)	5.2	2.5	6.9	5.8	3.0	5.2	7.1	3.8 *CDgrade > 3a
反回神経麻痺(%)	3.2	2.5	4.2	2.3	1.0	1.5	3.1	4.5 *CDgrade > 2



術後生存率

生存率を高めるため、さまざまな治療を組み合わせています。食道癌治療ガイドラインをもとにして治療計画を行います。患者さんごとにオーダーメイドし、最適な治療を提案します。ステージが進むにつれ、生存率は下がる傾向はありますが、当院での5年生存率は全国平均よりも良好な結果となっています。

